

2025年度
入学試験問題

国語

2月1日 午前

受験番号	氏名

中村中学校

問題は次のページからです。

一

次の(1)～(10)の——線のカタカナを漢字に直して答えなさい。

- (1) 風が強くなり、空モヨウが|変わる。
- (2) カン|ゴ師さんが応急の手当をする。
- (3) スターの人気がカ|コウする。
- (4) 苦手なことをケ|イエンする。
- (5) 経済の動きを正しくニン|チする。
- (6) 炎天下では水分はすぐにジ|ョウハツする。
- (7) 電化製品がコ|シヨウする。
- (8) ゼ|ンは急げ。
- (9) 足のス|ジをのばす。
- (10) ム|ズかしい問題に挑戦する。

二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

（設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。）

* 字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

「幸福学」というのは現代の知見を結集して、人が幸福に生きるとはどういうことかを科学的に検証する学問です。

しかし、幸福学の話をする人、興味を持つ人もいる一方で、こんな反応をする人もいます。

（a）、「幸せなんて定義できるものじゃない」とか「それぞれの人の主観的なことだから、学問にはならない」という反応です。

（b）、「近年、幸福学の研究は進み、世界中から1年間に1000篇ほどの研究論文が発表されるほど注目される分野になりました。そのため、新しい知見もどんどん明らかになっていきます。後で紹介しますが、各人の

10

5

客観的な幸福感を統計的・主観的に測る研究も進んでいます。ですから、幸せを科学的に分析することもできるし、幸福になるための方法も科学的にわかっていると言えるのです。

（c）、「こんな見方をする人もいます。

「幸せなんて、結果論だから考えてもしょうがない」。人はいろいろな出来事が起きた「結果」として幸せや不幸を感じたりするのだから、何かが起こる前に、幸せになる方法を考えても仕方がないという考え方です。

しかし、^②「幸せは「結果」でもありますが、「原因」でもある」ということが、幸福学の研究からわかってきました。

ということかとすると、幸せな心の状態を保っている人は、そうでない人に比べて創造性や生産性が高く、利他的（他人の幸福や利益のために尽くすこと）で、やる気やチャレンジ精神に富み、健康で長寿になる傾向があります。ですから、幸せな心の状態でいれば、それが原

25

20

15

困となって、また良いことが起きるといふ好循環じゅんかんが起きるのです。

30

(d)、幸せは幸せを呼ぶ。「幸せになろう」と努力することによつて、人生がより良い方向へ進んでいき、さらに幸せになつていくということです。

ところで、先ほど「幸せなんて定義できない」という声を紹介しましたが、確かに幸せは人によつてそれぞれ違ちがいます。

35

たとえば、「十分なお金があること」、「好きな人いっしょと一緒にいられること」、「穏やかおだで何もない毎日が続くこと」、

「楽しいイベントがたくさんあること」、「死ぬ瞬間しゅんかんに、

ああ、いい人生だったと思えること」。これらは私が今ま

40

でいろいろな方に聞いてきた幸せの形です。幸せについては、皆がみなさまざまな考えを持っています。

③しかし、幸福学では、ある程度、幸せの定義を明確にしています。

たとえば美味おいしい食事をした時に満足感を覚えたり、ゲームで高い得点を出した時に爽快そうかい感を感じたり、スポーツをしている時にワクワクしたり、テストで良い点を取った時には達成感を感じたりしますよね。

そのような感情的に幸せな状態のことを、英語では「ハピネス(happiness)」と表現します。「楽しい」とか「嬉うれしい」といった意味合いで使われる言葉ですが、こうした感情というのは、それほど長く続くものではありません。

50

それに対して、もう一つ「ウェルビーイング(well-being)」という言葉があります。「ウェル」は良い、「ビー

55

イング」は状態という意味ですから、ウェルビーイングとは「良い状態」という意味で、辞書を引くと「幸福、福利、健康」とあります。身体面と精神面が満たされた広い範囲はんいでの幸福を示す言葉です。

幸福学が目指すのは、このウェルビーイングの状態で

60

す。ハピネスは長続きしませんが、ウェルビーイングは長続きする幸せです。

今、皆さんの心の状態は、良い状態でしょうか？ イライラしたり、腹が立っていたり、くよくよしたりしたら、それはウェルビーイングではない状態です。

一方、ウェルビーイングな状態というのは、気持ちがり落ち着いていたり、やる気やチャレンジ精神にあふれていたり、周りに感謝していたり、誰かと一緒にいる幸せをしみじみと感じているような状態です。

もしかしたら、今、悩みやストレスを抱えているという人もいるかもしれませんがね。

でも、悩みが一つもないという人はきつと少ないはず。誰だってテストの前にはストレスを感じるし、友だちとの関係で悩んだり落ち込んだりする日もあります。が、そうした多少の嫌なことがあっても、それらに押しつぶされることなく、落ち着いて向き合っていられる状態

態なら、ウェルビーイングな状態と言えます。

すぐに消えてしまうハピネスよりも、長く続くウェルビーイングを目指す。それが幸せのための第一歩なのです。

（前野隆司『幸せな大人になれますか』小学館）

※知見……見たり考えたりして知った内容や意見。

問一 (a) (d) に入る語を次からそれぞれ選び、

記号で答えなさい。

ア、また イ、しかし ウ、まず エ、つまり

問二 ——— 線①は、二つの言葉の位置が逆になってし

まったため、意味がよく通らなくなっています。
入れかえる二つの言葉を答えなさい。

問四 ——— 線②について、

(1) このように言えるのはなぜですか。文中の言葉を
用いて、四十字以内で説明しなさい。

(2) この内容を言いかえた表現を、文中から八字でぬ
き出して答えなさい。

問三 本文のはじめの方には「○○的」と「的」のついた

言葉がたくさん出てきますが、次の語の中で、他の
四つと比べて「的」がつくことがあまりないのはど
れですか。一つ選び、記号で答えなさい。

ア、現実 イ、好意 ウ、総合
エ、電動 オ、論理

問五 ———

線③とありますが、幸せの定義を文中の言
葉を用いて次のようにまとめました。

I II
・
に入る言葉をそれぞれ指定された字
数でぬき出して答えなさい。

I (十字以内) II (二十五字以内)
ではなく 。

問六 次のア～エを、「ハピネス」と「ウエルビーイング」

に分けるとしたらどちらになりますか。「ハピネス」

ならAを、「ウエルビーイング」ならBを解答らん

に記しなさい。

ア、本を読んで得た知識が今後に生かせそうな気がした。

イ、今年のお年玉の合計金額が予想を大きく上回った。

ウ、気の合った友人たちとテーマパークで一日中遊んだ。

エ、新しいクラスの居心地がよく、勉強もはかどると感じた。

問七

本文によると幸福学における幸せは「ハピネス」よ

り「ウエルビーイング」の状態であるということが

述べられていましたが、あなた自身が考える具体的

な「ウエルビーイング」の状態を一つあげなさい。

そして、そのためにどのようなことに注意して生き

ていこうと思いますか。あなたの言葉で書きなさい。

三 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

（設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。）

＊字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

十四歳の暁^{さいあかつき}は、母親を病で失い、そのため気力を無くし会社をやめた父親と、父親の出身地である郊外^{こうがい}の町へ越してきた。

現在は父と二人で暮らしている。バスケットボールに情熱を燃やしていたものの、転校先に女子バスケットボール部はなく、出会った仲間とともに一から作り上げて、公式戦への試合出場を果たした。しかし、できたばかりのチームでメンバー同士の意思がうまく通らず、結局大差で負けてしまった。試合後、ぎすぎすした雰囲気の中始まったミーティングではお互い^{たが}の意見を言い合った。結果的にチームメイトのきずなは深まり、キャプテンの暁は「チームのみんなが苦しい時に自分を見てくれるような存在になりたい」と決意した。

バッシュケースを手^てに提^さげたまま、川沿いの道をいつきに駆^かけていく。①橋^{はし}の（ ）で欣子^{きんこ}とリモと別れた後、薄暮^{うすぐ}れの中をランニングをしながら家に向かった。リモも家まで走って帰ると言っていた。②試合^Aで使いきったはずの体力がまた戻^{もど}ってきている。その源泉がどこにあるのかわからないが、心と体を突^つき動かす力が湧^わいてくる。

「ミーティングして、ほんとよかった」

言^②いたいことを互いに口にする^②と、靄^{もや}が晴れたかのよう^②に目標が明確になった。目標が見えてくるとわけもなく楽しくな^Bってきて、このまま練習しようか、という話になった。薫^{かおる}が「X」と言い出さなければ、まだ学校に残っていただろう。

「いい感じ。どこまででも走れそう」

いまから一試合は軽くできる。リュックの中の水筒^Cがカタカタと揺^ゆれるのを背で感じながら、暁はスピードを上げた。夏の花が咲^さき始めたからか、いつもより景色が鮮^{あざ}

やかに見える。

川沿いの道がやがて終わると、そのままスピードを落とさず農道に飛び出していく。車はほとんど通っていない。ぐんぐんと加速しながら家に近づけば、家の背後にある山が迫ってきた。

「と、う、着つ」

さすがにふくらはぎが張っている。夏の犬のような呼吸をしながら、暁は玄関から家の中に入っていた。

あれ……。

④ 玄関で靴を脱ごうとして、妙な違和感を覚えた。なにが違ちがうのだろう。よく見れば、父のサンダルや暁のローファーの他に、女物の華奢きゃしゃなパンプスが揃そろえてあった。引越こす時に母の衣類や靴は手放したので、大人の女性の履物はきものを見るのはずいぶん久しぶりな気がする。

「ただいま……」

※たき 三和土にスニーカーを揃えて、家の中に向かって呼び

かける。

「……お父さん？」

居間に続く扉を開けると、満面の笑みを浮かべた父が女の人と向き合っていた。マスカットのような淡いグリーンのスーツを着た女の人の細い背中が、すぐ目の前にある。

⑤ 一瞬、お母さんかと思った。そんなことあるわけない

のに、お母さんが暁に会いに来てくれたのかと……。

「達夫くん、この子が暁ちゃん？ おかえりなさい」

女の人が振り返ると、知らないうちに強張こわばっていた全身から力が抜けた。お母さんかもしれない、どうしてそんなことを思ったのだろう。そんなこと……あるわけないのに。

「はじめまして。私、白木といいます。お父さまの友人なの」

ぽうぜん 呆然と立ち尽くす暁に、白木という人が話しかけてく

る。⑥^{かす} 微かに香ってくる化粧品^{けしやうひん}の匂いに胸^{むね}を衝かれ、でも
すぐにお母さんの白い顔を思い出し、目を逸^そらした。

「あ、ども」

白木がいるだけで馴染^{なじ}み始めた居間が違った感じに見える。知らない場所に來たみたい。お父さんが「達夫くん」なんて呼ばれているのも初めて聞いた。

「どこ行くんだ」

ぺこりと頭を下げた後、自分の部屋に入ろうとした暁に父が話しかけてくる。

「汗^{あせ}でベトベトだからシャワー浴びてくる」

自室に続く襖^{ふすま}を開けながら、振り向かず^ふに暁は返した。

「お客さんが來てるんだから後にしなさい」

「いいのよ達夫くん、気にしないで」

「いや、でも……」

「だって今日、バスケットの試合だったんでしよう？
そりやすぐにシャワー浴びたいわよ」

60

55

50

二人の会話を襖^ご越しに聞きながら、筆筒^{たんす}を開けて着替^きえ
を取り出す。話したかったのに……。お父さんに、今日の
試合のことやミーティングでみんなと話したことを聴^きいて
ほしかったのに……。暁は俯^{うつむ}いたまま部屋から出ると、
父とも白木とも目を合わせずに風呂場^{ふろば}に向かった。

結局、白木が帰ったのは夜の八時を過ぎてからだった。

父が白木を車で駅まで送っている間、暁は居間でテレビを観ていた。好きでもない芸人が、たいしておもしろくもない話をしている。

「ただいま」

玄関先で父の声がする。浮^うかれて聞こえるのは気のせいだろうか。

父が居間に入ってきてても、暁は「おかえり」を言わず、
テレビに夢中になつてふりをする。テレビの中では声
の大きな芸人が、どうでもいい話をまだ喋^{しゃべ}り続けていた。

「白木まどかさんはおれの大学時代の同級生で、同じ建

80

75

70

65

築学部だったんだ」

さすがに無視はできないので、「へえ」といちはおうは頷いた後、声を上げて笑った。芸人のギャグにウケてるふり。テレビに集中してるから話しかけるなアピール。

「大学を卒業してからは友達^{けっこんしき}の結婚式で一度会ったきりだったんだけど、突然^{とつぜん}連絡があつてな。いやあ驚いた。

白木さん、おれが会社を辞めて^やここで暮らしていること知ってたんだ。やっぱりSNS^{つな}つてのはすごいな。どこでどう繋がるかわからないもんだ」

暁はテレビの画面から目を離さずに、適当なタイミ^{はな}ン^いグで頭をふらふらと振っておく。父がはしゃぐ姿に苛立つのは、心が狭い^{せま}からだろうか。さっさと風呂に入れば

いいのに、父が冷蔵庫を開けてとっておきの酒を取り出してくる。福島^{こめじょうちゆう}の米農家が造ったという米焼酎。父の誕生日に、母が病院先からネット注文して贈った酒だ。

焼酎は日本酒と違って古酒にはならず、時間が経つても

美味しく飲めるらしい。だからもう三年間も、冷蔵庫の

守り神のように鎮座^{ちんざ}している。

⑧ 父がこの酒を飲むのは特別な日だけだった。

最近では引越^{いえい}し祝いに。その前は母のお葬式^{そうしき}が終わった夜、母の遺影の前で飲んでいた。父にとっては大切な酒だ。

「白木さんは学生の時から優秀^{ゆうしゆう}でな、いま県の職員をしてるって言ってた」

父が東北にある県の名を口にする。まだ一度も訪れたことがない、地図でしか知らない土地だ。

「かなり出世^{にぎ}したみたいで、いまは人事権を握ってるらしい」

「ふうん」

「実はな暁。白木さんの勤務する県庁で、災害からの復旧や防災関連の人事を強化するために土木職員^{きんきゆう}を緊急募集するそうなんだ。土木関連の知識を持つ大学院生や、

道路や河川工事の管理、監督ができる民間企業の出身者を採用したいらしい」

「へえ」

アルコールが入っているせい、父はいつもよりずっと饒舌だつた。仕事のついでとはいえ、同級生の女性がわざわざ自分を訪ねて来た。それがよほど嬉しいのだろう。こんなに楽しそうな父を久しぶりに見た。

「なあ暁、どうして白木さんがおれを訪ねて来たか、わかるか」

そんなのわかるわけないじゃん、と思いつつ、「出張のついで」と適当に返しておく。

「おれの力を貸してほしいと言われたんだ」

「力？ 布団でも干すの？」

「実はな、白木さんがおれを、県の職員として招きたいって言ってきたんだ」

「県の……職員？ どういうこと」

125

120

115

「このところ、豪雨や台風などの自然災害が頻発しているだろう。その災害対応や防災の態勢を整えるために、専門知識のある経験者を迎えたいそうだ。彼女の話だと一九九〇年代後半に採用を抑制した影響が出ているとかで、人手が足りてないらしいんだ」

「そうじゃなくて。どうしてお父さんに声かけてきたの？ お父さんって普通の住宅を建ててたんじゃなかったっけ」

「建設会社に就職したからな。でも専門は土木系の建設都市工学だったんだ。同級生には白木さんのように県庁や市役所に就職した人や、国土交通省、環境省で活躍しているやつもいる」

募集する際の年齢制限は四十歳までだが、達夫くんから私の推薦だから大丈夫。正職員として迎え入れることができる。そう説得されたのだと、父が話す。

「まさか、心動いてるとか？」
嫌な予感がした。

140

135

130

「いい話だとは、思った」

「いい話？」

「もともと興味のある分野だし、しかも県の正職員として働けるんだ。四十五歳で公務員になるなんて思ってもみなかった。ちよつと、夢のような話だな」

それから父は、白木まどかという人がいかに優秀だったかを語り出した。

《 中略 》

「入職は来年の春でどうかと言われている」

「は？ なにが春って？」

「だから、仕事を始めるのが来年の四月ってことだ。いま七月だから、あと八か月あれば家を探したり引っ越しをする時間は、十分とれるだろう」

「どういうこと……また……転校するの？ 今度は違う

160

145

県に……」

「おまえには迷惑ばかりかけて、ほんとにすまないと思ってる。でもお父さん、今度はきちんと」

⑨「あたしは……嫌だよ。引っ越すなら自分ひとりで行って。あたしは行かない」

立ち上がり、そのまま廊下に出て玄関に向かった。前につんのめるようにして靴を履き、外に飛び出す。

「暁っ」

背後で父の声が聞こえたが、振り返るわけがない。

街灯のない真つ暗な農道を、暁は走った。空に浮かぶ白い月が明るくて、畑や道端の草花を照らしている。⑩ど

うして大人は、子供の気持ちを考えないのだろう。自分たちの都合がいちばんで、子供をそれに従わせる。罪悪感など微塵もない。自分たちの幸せが子供の幸せにつながるなどと、身勝手な思い込みをしているのだ。「親が笑っていることが子供の幸せ」。いつか誰かがそんなことを

175

170

165

言っていた。そうとは限らない。親が笑っていても子供は泣いている。薫だつて欣子だつて、親の身勝手に苦しんでいる。知らないうちに涙^{なみだ}が出ていて、泣きながら欣子の家に向かつて走った。吸い込んだ空気が喉^{のど}に刺さり、立ち止まって思いきり咳^せき込んだ。吐^はきそうになりながら必死になつて呼吸を整える。目尻^{めじり}から涙が、口端^{くちばし}から涎^{よだれ}が道路の上に滴^{したた}り落ちる。最低だ。恰好^{かつこう}悪い。

180

欣子の家に着くと何度も繰^くり返し呼び鈴^{りん}を押^おしたが、中から人が出てくることはなかった。

185

「……留守なのかな」

窓明かりも見えないので、実家に帰ったのかもしれない。

「どうしよう……リモ、いるかな」

羽虫が飛び交う夜道を、暁は月と電灯の光だけを頼^{たよ}りに歩いていった。

190

※三和土……土やコンクリートで仕上げた土間のこと。

ここでは、玄関の土足で入るところ、の意。

問一 —— 線①は、「橋の出入り口」という意味の表現

です。() にはどのような言葉が入りますか。

次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、たもと イ、そで

ウ、えり エ、ふところ

問二 —— 線A、Dの熟語のうち、読みの組み合わせが

異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

問三 ——— 線②と同じような意味の四字熟語を次から

一つ選び、記号で答えなさい。

ア、行雲流水 こううんりゆうすい

イ、雲散霧消 うんさんむしろう

ウ、和氣藹々 わきあいあい

エ、晴耕雨読 せいこううどく

問四 X に入る言葉を次から一つ選び、記号で答

えなさい。

ア、そんなことやったつてうまくならない

イ、まずはストレッチをしてからにしよう

ウ、今日は店の手伝いがあるから

エ、私はまだ納得 なっとく していない

問五 ——— 線③とありますが、この部分を読んで分かる

ことを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、家の背後にある山が動いているということ。

イ、暁が速いスピードで走っているということ。

ウ、人も車もあたりには見えていないということ。

エ、ふくらはぎが悲鳴を上げ、呼吸が乱れていること。

問六 ——— 線④とありますが、なぜ暁はこのように感じ

たのですか。次の（ 1 ） 、（ 2 ） にそれぞれ

適当な言葉をおぎない、理由を完成させなさい。

いつもなら（ 1 ） のに、

（ 2 ） から。

問七 ——— 線⑤とありますが、暁はどうしてこのように

思ったと考えられますか。次から明らかに異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア、お父さんの前にいるのはお母さんしかないと思
っていたから。

イ、心の底ではお母さんに会いたいという気持ちがあ
ったから。

ウ、バスケットの試合の後、家に帰るまでとんとん拍
子だったから。

エ、お母さんが好きだったマスカットの色をした服を
着た人が現れたから。

問八

——— 線⑥とありますが、この時の暁の気持ちとし

てあてはまるものを次から一つ選び、記号で答えな
さい。

ア、久しぶりに感じた大人の女性の存在に一瞬驚いた
が、母がこの世にもういないことをすぐ思い出し、
落ち込んでいる。

イ、自分の好きなタイプの化粧品の匂いだったが、母
だったら自分の汗のにおいなど気にせず近づいて
いたのにと切なくなっている。

ウ、自分の嫌いなタイプの化粧品の匂いだったため、
自分の好きな匂いの化粧品をつけていた母の顔を
思い出し、懐かしく思っている。

エ、久しぶりに感じた大人の女性の存在に戸惑ったが、
母が生きていれば白木にも戸惑わず愛想よくでき
たと後悔している。

問九

—— 線⑦とありますが、このときの暁の心情として最もあてはまるものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、白木が訪れてきたことにあきらかに浮かれている父に対していらだちを覚えている。

イ、初対面なのに「ちゃん」付けで呼んでくる白木のがれなれしさをうつとうしく思っている。

ウ、汗をかいて今すぐにでもシャワーを浴びたいのに呼び止めてくる父に怒りを感じている。

エ、今日一日の出来事をすぐに父親に話したかったのにそれができなくてがっかりしている。

問十

—— 線⑧とありますが、今回は父にとってどのような意味で「特別な日」だったのでしょうか。次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア、同級生の女性がわざわざ自分を訪ねてきたという意味。

イ、学生時代からの夢であった公務員にやつとなれるという意味。

ウ、優秀な白木が自分のことを高く評価してくれたという意味。

エ、亡くな^なった妻に久しぶりにいい報告ができるという意味。

オ、仕事から離^{はな}れていた父が働けることを家族で祝うという意味。

問十一 ―― 線⑨とありますが、暁がここまで強く反発

するのはなぜですか。帰宅前の暁の様子をふまえ
たうえで説明しなさい。

問十二 ―― 線⑩について、次の清子さんと直美さんの

会話を読み、

・

を埋めなさい。

い。ただし、

は本文中から五字でぬき

出して答え、

は自分の言葉で答えなさい。

い。

清子さん 暁さんは親が「自分たちの幸せが子供の

幸せ」と考えることを「

」と

言っているね。

直美さん 確かに暁さんからしたら、ようやくいろ

いろと順調になつてきているのにいきなりあんなこと言われたら、ねえ。

清子さん この場合どうしたら暁さんはここまで悲

しまずにすんだんだろうね。

直美さん やっぱり暁さんが帰ってきたときにお父

さんが暁さんの

べきだったんだよ。

清子さん そうだよね。そうしておけばお父さんも

暁さんの気持ちを考えた発言をしていたはずだよね。

直美さん そうそう、お父さんもどこかで「親が笑

っていることが子供の幸せ」と思い込んでいるところがあつたのかもね。

清子さん だから自分の話ばかりしていたんだろう

ね。

直美さん そうだね。わたしも今度から何か発言す

るときはまず相手の

Ⅱ

ことに

するよ。

清子さん わたしもそうする。

以下、余白です。